

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202825		
法人名	医療法人社団真友会 藤井医院		
事業所名	医療法人社団真友会 藤井医院 グループホームみどり	ユニット名	
所在地	長崎県佐世保市中通町17-22		
自己評価作成日	平成25年8月3日	評価結果市町村受理日	平成25年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成25年8月19日	評価確定日	平成25年10月1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの声に耳を傾けると言う理念を大切にしています。その中で、昨年11月に入居された女性(92歳)はとても明るく、ムードメーカー的存在の方です。必然的に職員もその方だけでなく、他の入居者様との関係も暖かい雰囲気になってきています。ご入居様の活き活きとした表情と笑いが絶えません。パワーをいただいています。職員間の思いやりや協調性も高くなり、ケアの質の向上に繋がっております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームみどり”のチームワークは着実に良くなっている。職員同士の良い所を認め合い、お互いに思いやる姿勢も見られている。職員全員、利用者の方々の笑顔を見る事に喜びを感じ、生活歴や職歴等を丁寧に把握し、日々の要望を叶える取り組みを続けている。車椅子を利用されている方が立位保持の運動を毎日続けられ、念願であった自宅に帰る事ができたり、「土いじりをさせて欲しい」と言う要望を家族から頂き、フロアやベランダに植物を増やした事で、利用者の方々がベランダで過ごされる時間が増えている。意思疎通が困難な方にも職員は常に笑顔で声かけし、職員と手を繋いで歩かれる姿も日常で、次第に発語が増え、表情も豊かになられている。利用者の方々の小さな変化は職員と家族の大きな喜びになっており、更なる“笑顔を引き出す”ためのアイデアを考える姿勢に発展してきている。地域の方からの支援にも感謝されており、地域の方からの声かけを頂き、グランドゴルフ愛好会に加入する事ができた。今後も職員全員が結束し、“…その人らしさを大切にしたい生活が送れるよう…”チームワークを深め続けているホームであった。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の時に理念を復唱し、フロアの壁にも理念を貼り、ケア向上に努めている。ただ読むだけではなく、口にするだけでなく、心に刻んでケアに臨むことに努めている。	理念にある“その人らしさ”と言う事を大切にされている。利用者の方々に目を向け、耳を傾けてこられ、情報は記録に残し、職員間で共有している。生活史を含め、どのような暮らしを求めておられるかを深く知る事で、生活の質とケアの質の向上に努めている。利用者同士の助け合いも増え、編み物なども楽しまれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りのポスターを掲示して頂いたり、行事でのボランティアやグランドゴルフへの参加をしている。	利用者の作品を公民館祭りに出品したり、加齢大会に参加する等、地域との交流は増えている。職員の方々は「お世話になっている地域を綺麗にする」と言う思いで、市民大清掃にも参加させて頂いている。系列施設で行われた保育園児の組み体操等も生まれ、小学校の運動会では利用者の方も参加する事ができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族会などで現状報告を行い、理解して頂けるよう支援に努めている。キャラバンメイト研修の参加により、地域貢献をしたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他の施設の方や地域の方など現状を報告・意見の出し合いをして、今後の活動内容にし、ケアの向上にも努めている。	良き情報交換の場になっており、地域の悩みも共有できている。参加者からグランドゴルフの普及と参加についてのお話を頂き、愛好会に加入する事ができた。緑のラケットを持参し、利用者と職員が練習に参加している。施設の夏祭りに催し物をお願いすると、睦会の皆様が“ひよっこ踊り”を披露して下さい、場を盛り上げて下さった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告を行っている。	地域包括の方が運営推進会議に参加して下さい、認知症研修の情報も教えて下さっている。市主催の研修会にも参加し、市の窓口に出向いた時も親切に対応して下さい。職場体験として、清水小学校から2名の生徒を受け入れ、その後、学習発表会の案内を学校から頂き、参加する事ができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを準備しており、身体拘束委員会での話し合いを行い、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束は全く行っていない。穏やかに過ごされている方が多いが、不穏になられる時には、ご本人の行きたい所を伺い、職員が同行する等の個別支援を行っている。ご本人が不快になられる原因を丁寧に把握し、着衣等の工夫や皮膚の清浄等も続け、少しでも不快な状況が軽減される対応を続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会での報告・発表を行ったり意識を高め防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料はあるものの、制度利用者はいなく学ぶ機会は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や面会の時に、質問などがあれば十分に説明を行い理解・納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しており、面会の時にも現状を説明をしコミュニケーションを大切にしながら、ご家族の意見も大切にしている。	「土いじりをさせて欲しい」と家族から要望を頂き、フロアやベランダに植物を増やした。次第に利用者がベランダで外の空気に触れる機会も増え、涼しい時間帯にお茶会を開催し、植木鉢の花やじゃがいもの成長を目にしながら、会話が弾んでいる。今後も、ご本人や家族の意見を日々の生活に反映させていく予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会・全体会・フロア会などで意見を出し合える機会を設けている。	毎月、勉強会とカンファレンスをしている。研修への参加促進の意見もあがり、職員個々のスキルアップができる体制も整えている。職員から記録の書式に関する意見が聞かれ、色々な意見を出し合った。新しい様式を作る事ができ、25年6月から使用している。お互いの良さを認め合い、プロの仕事を行うためのチームワークが深まっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各資格手当等を整備し、スキルアップに努めている。休みも偏りがないようになど、有休もとりにくい状況があるができるだけ配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	色々な研修会に参加しており、その報告や発表を月1回の全体会議やフロア会で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し交流を図り情報交換など行っている。同法人のグループホームとも行事などで情報を共有しケアの向上に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各入居者様に担当を決め、コミュニケーションを図る事で安心して生活ができるようなケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族会・面会時に現状を説明をしながらコミュニケーションを図り信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族とコミュニケーションを図る中で何が必要とされているかを見極め、より良いサービスが出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理のない程度で出来るお手伝いをして頂いたり、日常での会話も大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとや外出の時には、ご家族にも声をかけ参加をお願いし、お互いの信頼関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に行かれたり面会に来られたりされた時は、場の雰囲気や壊れないような支援に努めている。	利用者の生活歴等を伺っている。毎年、知り合いの方が誕生日にお花を持って来られたり、遠方より親族の方が面会に来られ団欒されている。遠方からの花の贈り物が届いた時には、職員と絵手紙を作り、感謝の気持ちを伝えている。車椅子利用の方が立位保持の運動を毎日続け、念願の自宅に帰る事ができた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に会話の仲介に入ったり、座席の配置やレクリエーションで関われるような支援に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談を受けれる関係を大切にしよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちになったり、表情や行動の変化を見落とさないようコミュニケーションを大切にしたい支援に努めている。	ケアマネと担当者が中心に、利用者の生活歴や趣味等の把握に努め、基本台帳に記載している。団欒時や入浴時、散歩の時などに1対1で会話をされており、質問形式にする事で単語が増え、笑顔も増えている。気持ちが不安な時は寄り添い、その方が好きな品物などを準備して気持ちを和らげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・利用された事業所などから情報をもとに本人に合ったケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり入居者様の過ごし方を観察を行い、本人の意向も尊重しながら、できる事・したい事の見極めをし良いケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の職員が中心になりカンファレンスをし、どのようなケアがいいかの意見交換をしながら計画を作成している。	25年4月からMDSも活用し、課題分析に取り組まれている。全職員の気づきや意見が計画に反映されている。下肢筋力低下予防の視点も大切に、理学療法士とも連携し、専門的な運動も取り入れている。お部屋の掃除や台所の手伝い、野菜作りの他、買い物、編み物、大正琴など、利用者の楽しみや役割も盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りを活用し、情報の共有をし一人ひとり入居者様の介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の要望や状態をみながら職員間での話し合いを行い、買物や外出などの個別で対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	少しずつではあるが地域の方との関わりも増えてきており、運営推進会議での意見も参考にし、行事などに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時及び月2回の往診と定期の健診を欠かさず実施。また、朝・夕の2回ファックスでの状態報告を行っている。ご家族の方の希望があれば他の医療機関にも受診できるように配慮している。	朝の報告時は利用者のバイタルを報告し、職員間の情報共有ができています。主にケアマネが受診介助し、受診結果は家族と共有できており、病状に応じて主治医から家族に説明されている。同建物内の看護師や母体医院の看護師とも連携し、点滴等の必要な医療処置も行われ、体調に応じて総合病院への紹介も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな気づきや特変がある時は、看護師に報告を行い即対応し指示を受け適切な対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の地域連携室担当者や主治医と連絡をとり合い退院が出来るよう支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とも話しを行い、少しでも思いに沿えるケアに繋げ、色々なケア情報をもとに主治医・看護師との連携を行い支援に取り組んでいる。	入居時に看取りに関する指針の説明を行い、意向も確認している。終末期には院長が家族と話し合い、ご本人と家族の“暮らし方と治療”への意向を大切にされた支援が行われている。終末期は毎日往診があり、職員がケア・整容一覧を作成し、「美しさを保つ」事を大切にされたケアが家族と一緒に続けられている。看取りを終えた後は職員同士で振り返りが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修会に参加をしている。マニュアルは準備しているが、定期的には行ってはいないが、主治医・看護師などの指示は適切に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルは準備している。年に2～3回の訓練を行い昼夜それぞれの設定のもとでしており、防災委員会も開催し誘導の仕方も見直しを行っている。	24年9月にスプリンクラーが設置された。防火マニュアルも新しく作成し、誘導方法も変更され、訓練に活かされている。火災発生防止のため、日頃からコンセントのチェックや埃の除去にも心がけ、災害に備え、在庫としての食材は常時あり、ペットボトルの水や非常持ち出し袋なども準備されている。	総合教育センターが避難場所であるが、災害時はホーム(複合施設)も地域の避難場所になる事が想定されている。今後も地域との協力体制に関する具体的内容を運営推進会議で検討していくと共に、避難場所を想定したマニュアルの作成もしていく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには十分に気をつけ、入浴・トイレの時には、膝にタオルを掛け、カーテンをしたり、きちんと閉めプライバシーの確保に徹底している。	施設長は「どんな時にも優しい声かけと尊重を忘れないようにして下さい」と職員に伝えている。職員は“自分だったら”“自分の家族だったら”と言う振り返りを行い、声かけに配慮している。“居室はその方の部屋(家)。ドアは玄関”と言う意識を持って対応しており、居室を出る時に居室に向かって一礼する職員の姿も見られた。	個人情報原則持ち帰り禁止になっている。今後も引き続き、個人情報の管理のあり方を職員全員で振り返ると共に、時間管理を含む業務のあり方や記録の保管の検討もしていく予定である。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉や表情を観察し、何が必要なかを見極め見落とさないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	気分や体調に合わせて過ごして頂き、本人の思いを優先にした支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の気にいった洋服を準備したり、行事などでは、お化粧をしたりしてそれぞれの好みを引き出す支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好き嫌いを把握をして、無理のない程度で調理や下ごしらえ・食器洗いなどのお手伝いをして頂いている。目の不自由な方には、献立の説明を行っている。	両ユニットで月交代に献立を作成しており、旬の食材を多く採り入れている。利用者からも「美味しい」と好評である。ベランダで育てたじゃがいもを収穫し、汁物の具材にしたり、利用者の方が食器拭きやモヤシの根切り等もして下さっている。職員も一緒に楽しく食事をされている。ホームでのそうめん流しや回転寿司で外食等もされている。	夏の時期に“かき氷”作りを一緒に行い、皆さんが喜んで下さった。今後も引き続き、利用者の方々と一緒におやつ作り等の機会を増やせたらと考えている。うどん打ち名人の利用者もおられるので、両ユニット合同のレク等で企画していく予定にしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人に合わせた食事量や水分摂取量など必要な方は、1日の記録をとり必要に応じて対応を行い、食事の摂取が低下されている方には、好物を摂って頂くような支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、まずは本人にして頂きその後チェック・介助を行い、鏡を見て頂いたりと支援を行っている。定期的な義歯洗浄(消毒)・歯科衛生士にみて頂き管理も行っている。舌ブラシ・歯間ブラシ・うがい薬も使用している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を職員全員が活用しながらも時間を見ながら声かけをし、トイレ誘導を行い排泄パターンの把握に努め、尿とりパットの種類も使い分け少しでも尿漏れ予防に繋げている。必ず職員は付き添い確認をしている。	トイレでの排泄を基本としており、下着使用(+パット)の方も多し。パットの大きさも個人毎に変え、羞恥心に配慮して、さりげない声かけを続けている。事前の声かけを行う事で失禁の減少にも繋がり、完全ではないが、尿意・便意の感覚が戻ってきている方もおられる。ホール利用時は目隠しのカーテンを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分(牛乳・お茶など)は飲んで頂き、おやつなどの時にヨーグルトやヤクルトをとり入れながら必要に応じて下剤やセンナ茶を飲んで頂き便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まってはいるが、体調や気分に合わせて入浴日の変更をし、気分よく入浴が出来るようにしている。	お風呂好きな方が多い。入浴を拒まれる時は少し時間を置いて入浴気分になって頂いている。体調に応じて2人介助も行き、入浴時は会話を楽しみ、季節に応じて菖蒲湯等も楽しんでいる。入浴剤は乳白色(足元が見えない為)ではないものを使用し、温泉気分を味わって頂いている。デイの広いお風呂を楽しまれる時もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの傾眠状態を把握し、日中でも休息をとって頂いたり、安心して気持ちよく夜も眠れるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容(詳細)を書いたファイルを活用し、服薬の時も職員は声に出して確認を行っている。バイタル測定を行い必要に応じて看護師や主治医に連絡を行い連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	まずは本人にして頂き、その中から好きなこと・得意な事・出来る事を見極め、それぞれ個人レクや歌など日常生活に取り入れ楽しんでもらえるよう支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事の時は、ご家族にも連絡を行い参加されています。ドライブ・外食など個別に好きな所へ一緒に行き楽しんで頂くよう支援に努めている。	他のフロアーに遊びに行かれたり、施設周辺の散歩もされている。車窓ドライブとして、1時間以内で行ける所にドライブし、紫陽花・桜・梅などの花見を楽しんでいる。石岳動植物園では色々な植物や動物を見られたり、夜の蛍見物にも出かける事ができた。職員と一緒に喫茶店で珈琲を飲まれたり、「買物や自宅(愛犬に会いたい)に行ってみよう」との事で、その都度、希望を叶えるように努めている。	



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全面的に事務所で管理をしている。必要な物は、買物に行った時や担当の職員が買ってきたり対応をしている。施設内訪問販売の時は、金銭管理が可能な方については、お預かりしているお金を使って支払いして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話・ハガキ・年賀状での返事を進めやり取りが出来るよう支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量・光の調節・温度・湿度に配慮し、フロアは季節感のある飾りつけをし雰囲気明るくなるような支援に努めている。色々な場所を定期的に整理を行っている。	各ユニットの入り口には職員の写真と名前などを掲示している。高台にあり、ユニット毎に海や山などを眺める事ができる。1つのユニットでは編み物の作品や外出時の写真を飾り、掲示物の作成などを利用者を楽しませている。1つのユニットでも貼り絵などを飾り、脳トレなどにも取り組まれている。両ユニットの利用者がベランダの野菜に水やり等をして下さり、収穫も楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーなどを活用し、気の合った入居者様同士でお話ができる場所を作り、気分転換をして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好きな物を持って来られた物を置いたり植物を育てられています。ご家族ともお話をもち、居心地よく過ごして頂けるような空間作りをしている。	自宅で使われていたタンスやソファー、テーブル等を持ち込まれ、ぬいぐるみや造花、写真、観葉植物等を飾られている。鏡や櫛の他、大切な仏壇を置かれている方もおられるが、持ち込みの少ない方には写真や動物のポスターなどを貼り、少しでも居心地の良い居室になるようにしている。利用者も一緒に居室の掃除をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーの為、安全に使用できトイレなど分かり易い工夫をしたり、障害物を置かないようにしている。		